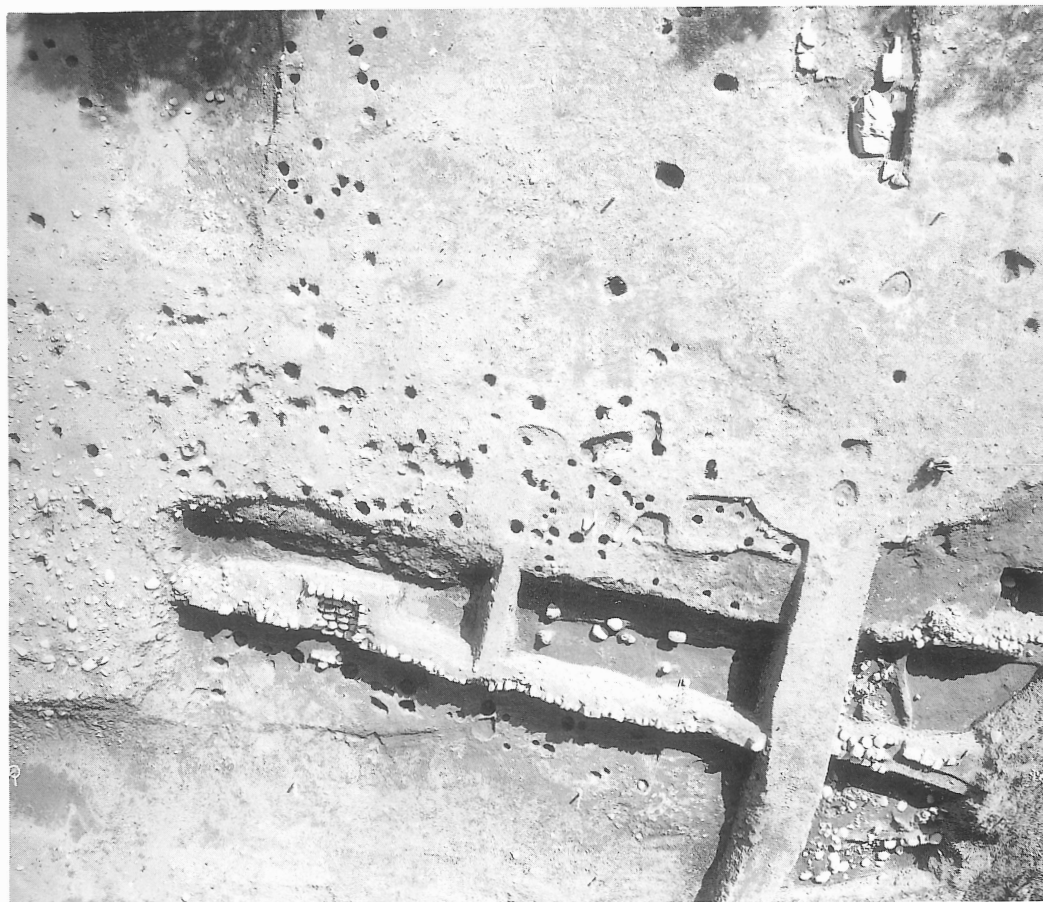


東 館 遺 跡

福岡県八女市大字山内所在遺跡の調査

八女市文化財調査報告書 第25集



1993

八女市教育委員会

序

八女市の東部丘陵地帯には県指定史跡の童男山古墳をはじめ数多くの古墳があることはよく知られております。このほか、この地域には中世の犬尾城・鷹尾城などの城跡が点在しています。今回の発掘調査は、この中世の城跡と非常に関係の深いと思われる遺構や遺物を中心に、古墳跡なども数多く発見されました。

なお、発掘調査にあたりまして工事施行者であるホクト産業株式会社代表取締役・水野正幸氏をはじめ光明寺住職・川崎信暁氏、山内町内会の皆様方の御協力と御理解で調査を終了することができました。関係の皆様深く感謝申し上げます。

平成5年3月31日

八女市教育委員会

教育長 坂田不二夫

例言

1. 本書は八女市教育委員会がホクト産業株式会社（代表取締役水野正幸）より委託を受けて実施した福岡県八女市大字山内字東館・東館遺跡^{やめ やまうち ひがしたち}の発掘概要の報告書である。
2. 発掘調査は八女市教育委員会が実施した。
3. 出土遺物の整理は岩戸山歴史資料館で行い、保管している。
4. 遺構の実測は参加者で行ない、遺物の実測は金納・赤崎が、浄書は田島が行った。なお、現場写真は太塚が撮影した。
5. 本書の執筆は太塚が、編集は太塚・赤崎が担当した。

本文目次

1. はじめに.....	1
2. 位置と環境.....	3
3. 調査の概要.....	3
① 縄文時代の遺構と遺物.....	3
② 弥生時代の遺構と遺物.....	6
③ 古墳時代の遺構と遺物.....	8
④ 中世（戦国時代）の遺構と遺物.....	24

（表紙写真 東館遺跡中世建物跡）

1. はじめに

ひがしたち

東館遺跡は福岡県八女市大字山内字東館に所在する。

調査の発端となったのは当該地にキノコ栽培を中心とした工場建設が計画された事による。このため、八女市教育委員会と開発を計画したホクト産業株式会社（代表取締役水野正幸）と協議を行ない、平成3年2月8日に試掘調査を実施した。この結果、開発面積14,357㎡の内約10,000㎡に中世を中心とした遺構の存在が確認されたため、平成3年2月1日付で調査の依頼を受け、平成3年5月13日より平成3年9月30日までの約5ヶ月間発掘調査を実施した。

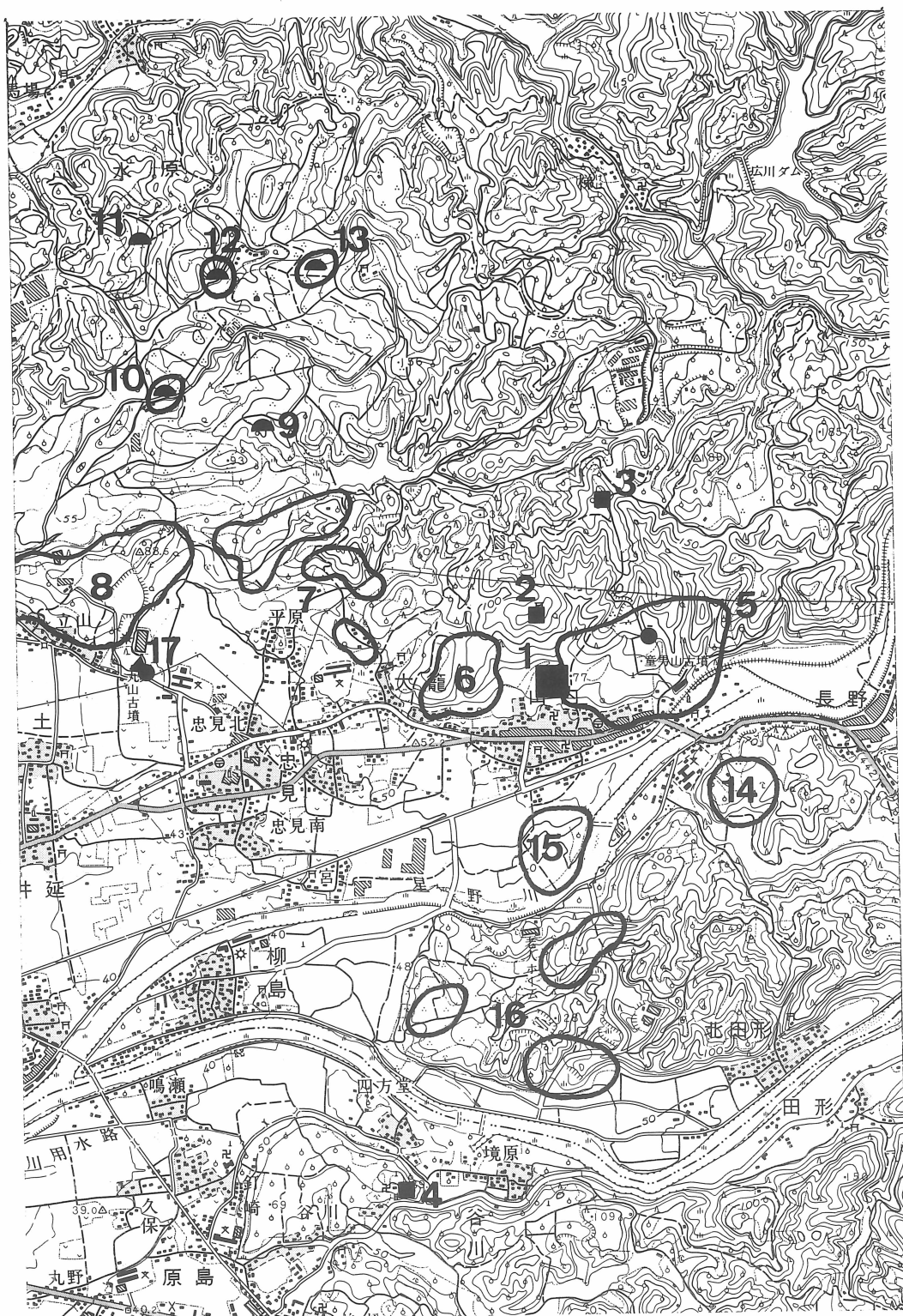
調査関係者は次のとおりである。

（平成3年度）

長野市・ホクト産業株式会社代表取締役	水 野 正 幸
八 女 市 教 育 委 員 会 教 育 長	坂 田 不 二 夫
教 育 部 長	松 延 繁 太
社 会 教 育 課 長	大 月 重 信
社 会 教 育 係 長	下 川 文 比 古
社 会 教 育 係	井上富雄・井手勇一・平嶋芳子 赤崎敏男・大塚恵治（調査担当）
嘱 託	中 川 寿 賀 子



第1図 東館遺跡発掘前〔東から〕



第2図 東館遺跡周辺図 [1/25,000]

- | | | | |
|-----------|-----------|------------|-------------|
| 1. 東館遺跡 | 6. 日迫山古墳群 | 10. 中尾谷竊跡群 | 14. 帰路女喜古墳群 |
| 2. 鷹尾城跡 | 7. 平原古墳群 | 11. 牛焼谷竊跡群 | 15. 榎町遺跡 |
| 3. 犬尾城跡 | 8. 立山山古墳群 | 12. 塚の谷竊跡群 | 16. 柳島古墳群 |
| 4. 谷川城跡 | 9. 三助山竊跡 | 13. 菅の谷竊跡群 | 17. 丸山古墳 |
| 5. 童男山古墳群 | | | |

2. 位置と環境

遺跡は、周辺地区一帯が一望出来る標高約70m 前後の高位段丘上に位置している。

東館遺跡の所在する丘陵は古くから八女丘陵と呼ばれ、八女市山内を東端とし、西は三潞郡三潞町西牟田までの10数kmにも及び、石人山古墳や岩戸山古墳をはじめとする大小約300基あまりの古墳が八女古墳群を形成している。

東館遺跡周辺は、これまで中世における発掘調査例がなく、当地における中世の実像解明は当遺跡から端緒についたといえる。

3. 調査の概要

八女丘陵から南西側に派生する標高約70mの舌状台地上の約10,000㎡が調査対象となった。

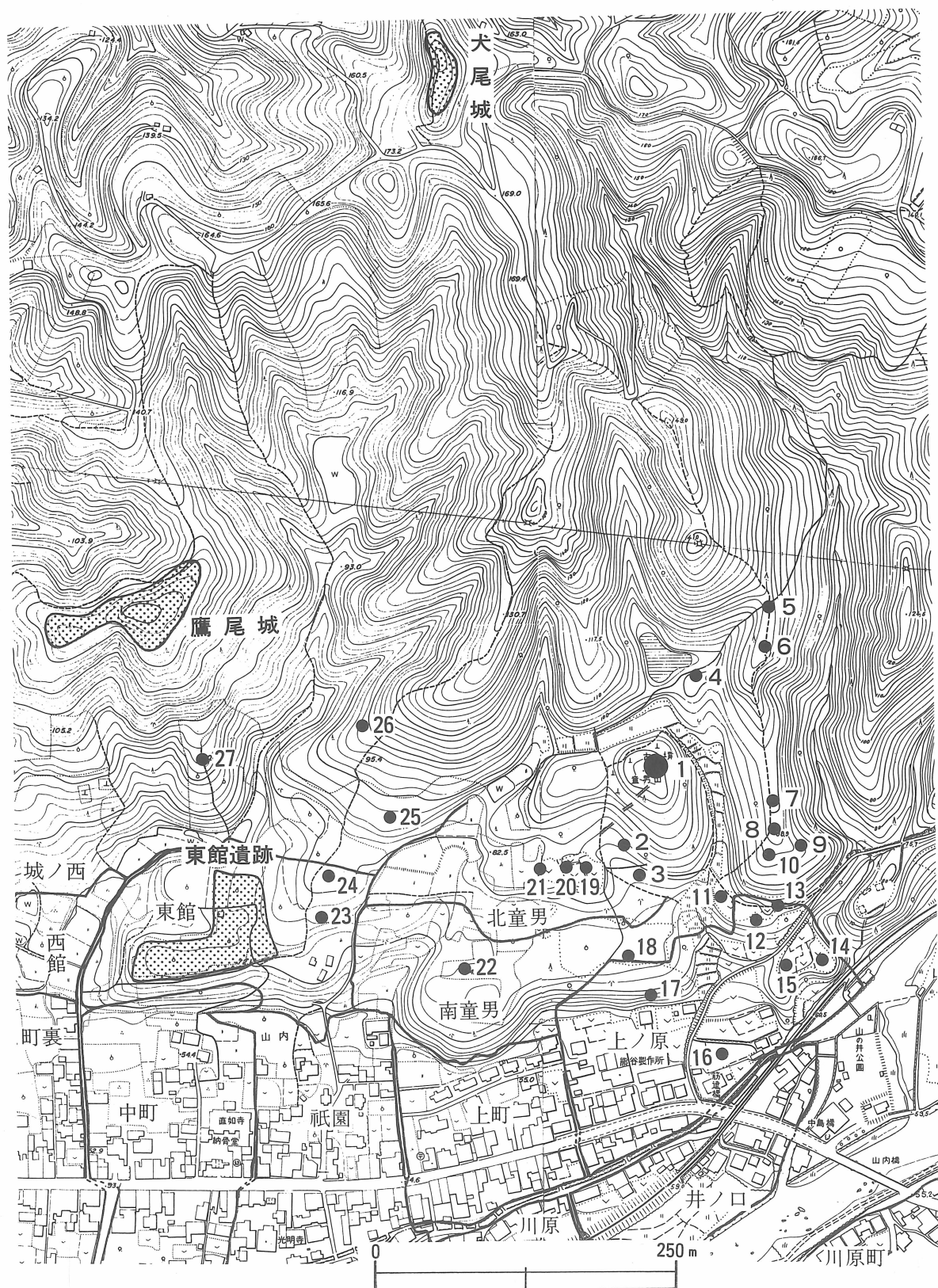
検出した遺構は、石垣状遺構、大溝、溜池状遺構、古墳、石棺、土壙、貯蔵穴、竪穴住居など多岐にわたり、出土した遺物も押型文土器、土師器・須恵器、褐釉陶器、22号土壙出土の輸入陶磁器、6号古墳玄室床面出土の青銅製馬具などがみられ、その内容的な豊富さともあわせて、当地の縄文時代から中世にかけての重要性がより一層鮮明にうかがえる。

① 縄文時代の遺構と遺物

検出された遺構は、竪穴住居1軒、貯蔵穴1基、土壙2基である。柱穴の存在は否定し得な



第3図 東館遺跡全景〔東南から〕



第4図 東館遺跡と鷹尾城・犬尾城位置と周辺の遺跡(小字・古墳・城跡) (1/5,000)



第5図 東館遺跡遺構配置図 [1/400]

いが、今回は不明であった。

〈1号竪穴住居〉

最大径4.6m×最小径3.4mのほぼ楕円形を呈する。竪穴住居内外部とも、これに伴うピットは検出し得なかった。

断面形はやや碗型を呈しており、その最下部、及び壁面からは、山形・楕円押型文土器が出土した。

◎貯蔵穴

〈25号土壇〉

1.0m×1.0mを計る。ややいびつな円形を呈している。埋土中より多量の炭化ドングリが、又、最下部より分銅型石斧などの石製品類が出土した。共伴遺物より、縄文時代後期があたりよう。

◎廃棄場

〈40号土壇〉

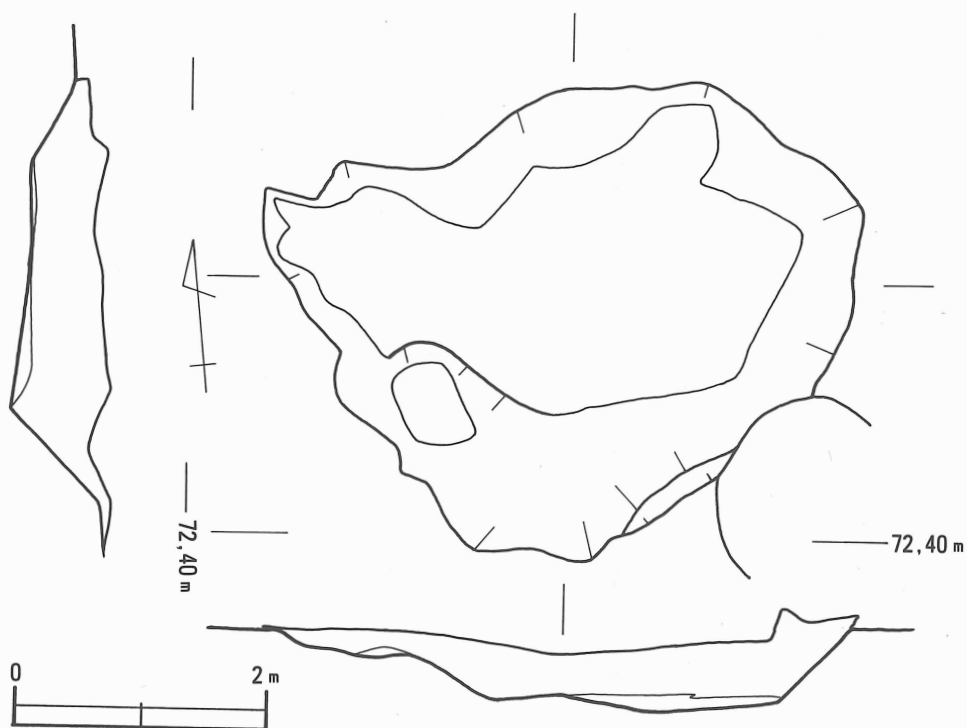
0.95m×0.85mの隅丸方形を呈するもので、石材や剥離片が多数出土した。石器製作上の廃棄場と思われる。

② 弥生時代の遺構と遺物

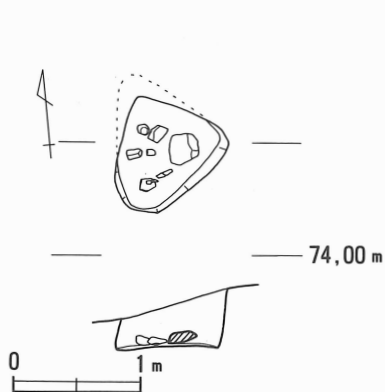
弥生時代に属すと考えられる遺物は遺跡内にいくつか散見出来たが、確実な資料は確認出来なかった。



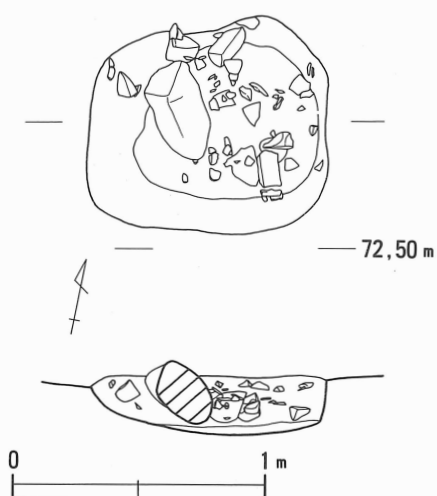
第6図 1号竪穴住居〔東南から〕



第7図 1号豎穴住居 [1/60]



第8図 25号土坑 [1/60]



第9図 40号土坑 [1/30]

③ 古墳時代の遺構と遺物

土壇1基、石棺2基、古墳9基を検出した。古墳の内訳は、竪穴式石室8基、横穴式石室1基である。

〈竪穴式石室〉

● 1号古墳

石室長2.16m、石室幅1.3m、高さ0.23mを計る。主軸方向は東—西である。

扁平な石材をややレンガ状に積み上げ、床面には10cm程の板石を硯石状に配している。床一面には赤色顔料を塗付しており、石室構築時には石室全面に塗られていたものと思われる。

● 2号古墳

石室長1.8m、石室幅1.2m、東壁側0.8m、西壁側0.7m、高さ0.25mを計る。主軸方向は南—北東である。

平面プランはやや羽子板状を呈しており、1号古墳と同じく、扁平な石材を横位にレンガ状に積み上げている。

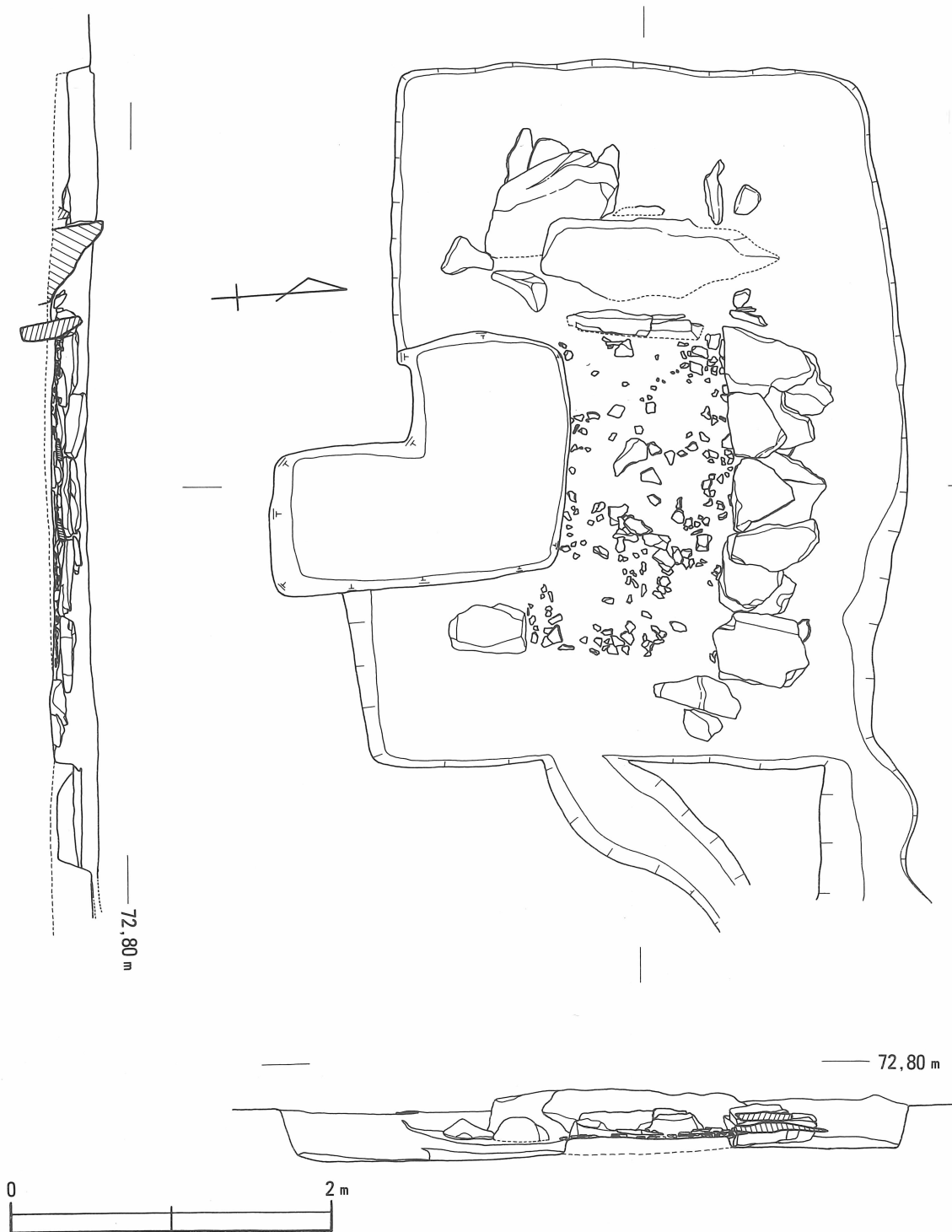
● 3号古墳

石室2.1m、石室幅1.0mを計る。竪穴式石室。最下段（1段目）は縦位に石材をはめ込み、2段目より横位に石材を積み上げている。

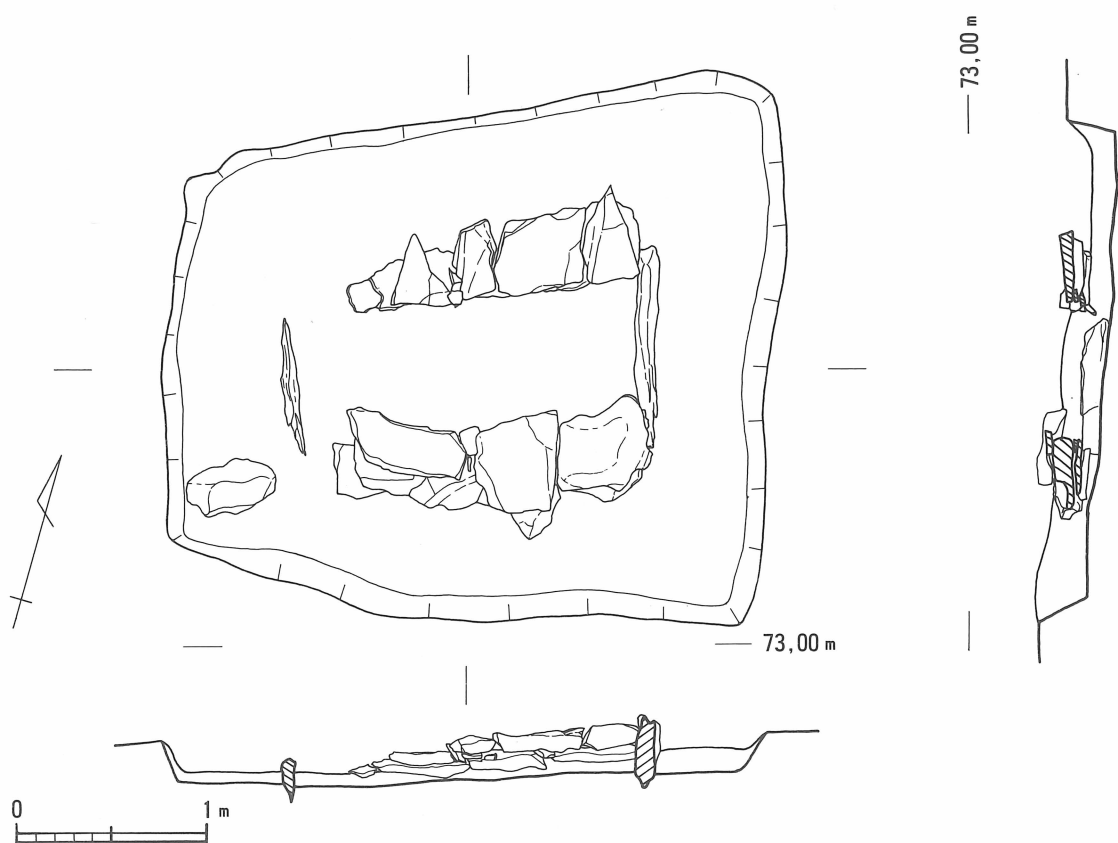
上部遺存状況は悪く、現存しているのは2段目までであるが、床面の状況は比較的良好で、現存長68cmの鉄製大刀が一振出土した。



第10図 東館遺跡東側〔上空から〕



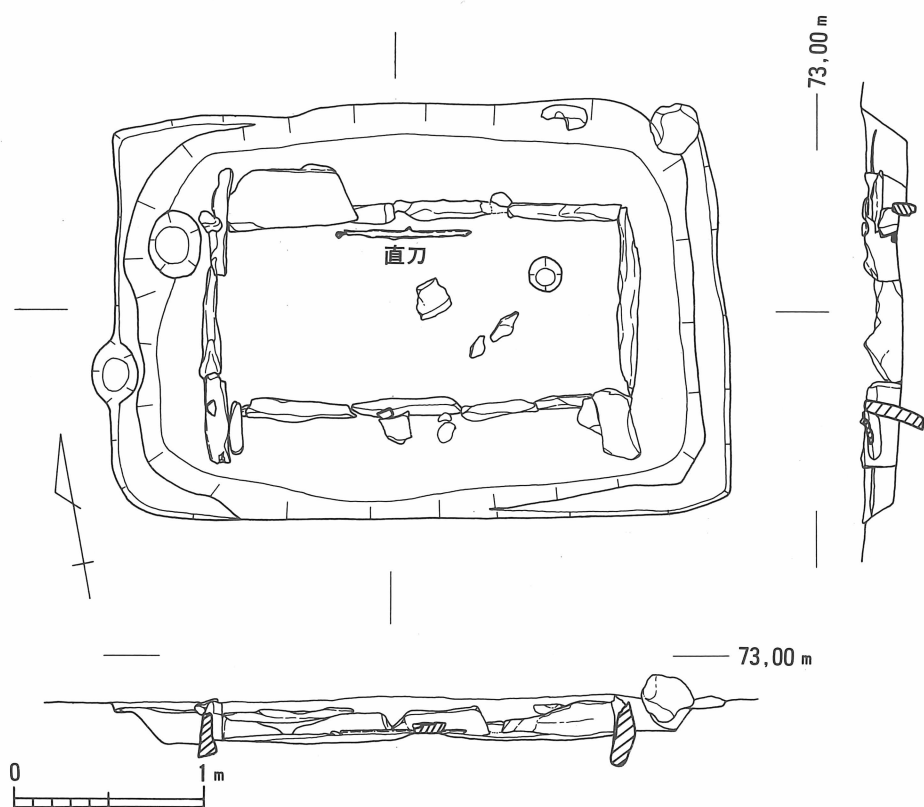
第11図 1号古墳 [1/40]



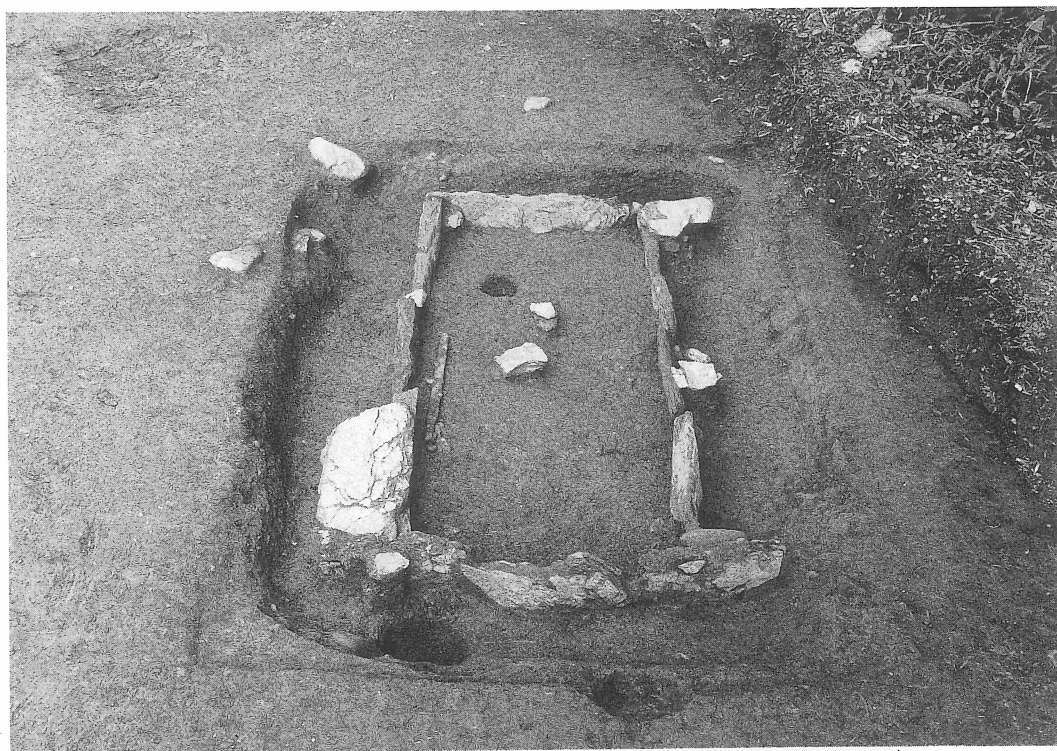
第12図 2号古墳 (1/40)



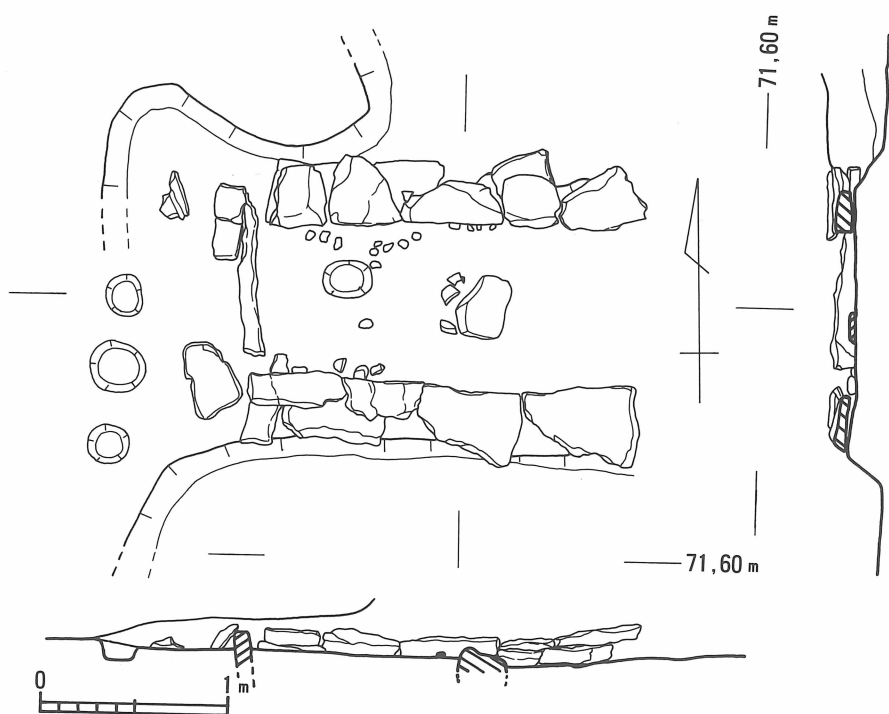
第13図 1号古墳 (東から)



第14図 3号古墳 (1/40)



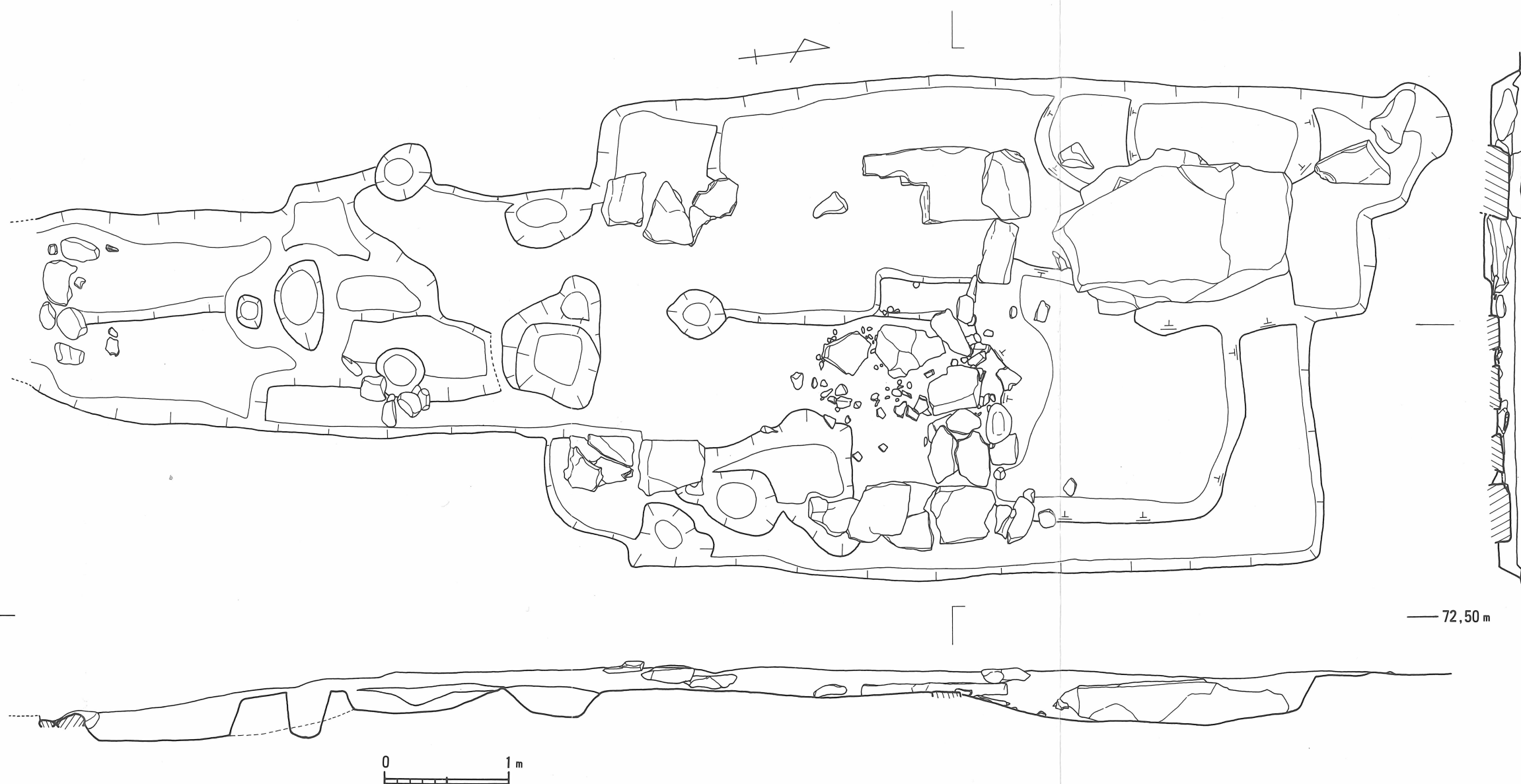
第15図 3号古墳 (西から)



第16図 4号古墳〔1/40〕



第17図 4号古墳〔東から〕



第20図 6号古墳 [1/40]

● 4号古墳

現存で、石室長約2.0m、石室幅0.9m、高さ0.05mを計る。主軸方向は東—西である。

● 5号古墳

掘方長2.9m、幅1.6m、石室長1.8m、石室幅0.5m、高さ0.3mを計る。主軸方向はほぼ東—西である。扁平な石材を（1段目より）横位に積み上げて石室を構築する手法は、1号、2号、4号古墳と共通している。

● 7号古墳

現存で、掘方長2.0m、幅0.95m、石室長約1.5m、高さ0.25mを計る。主軸方向は東—西である。

● 8号古墳

掘方長2.6m、幅1.4m、石室長1.7m、石室幅0.45m、高さ0.35mを計る。主軸方向は南東—北西である。3号古墳と同じく、1段目が縦位に、2段目以降は石材を横位に積み上げている。

東壁の高さが西壁に比べ極端に低いことから、入口を意識したものか、或は、2段目の石材の存在が考えられる。

● 9号古墳

現存で、掘方全長2.4m、幅0.95m、石室幅約0.4m、高さ0.15mを計る。主軸方向は北西—南東である。

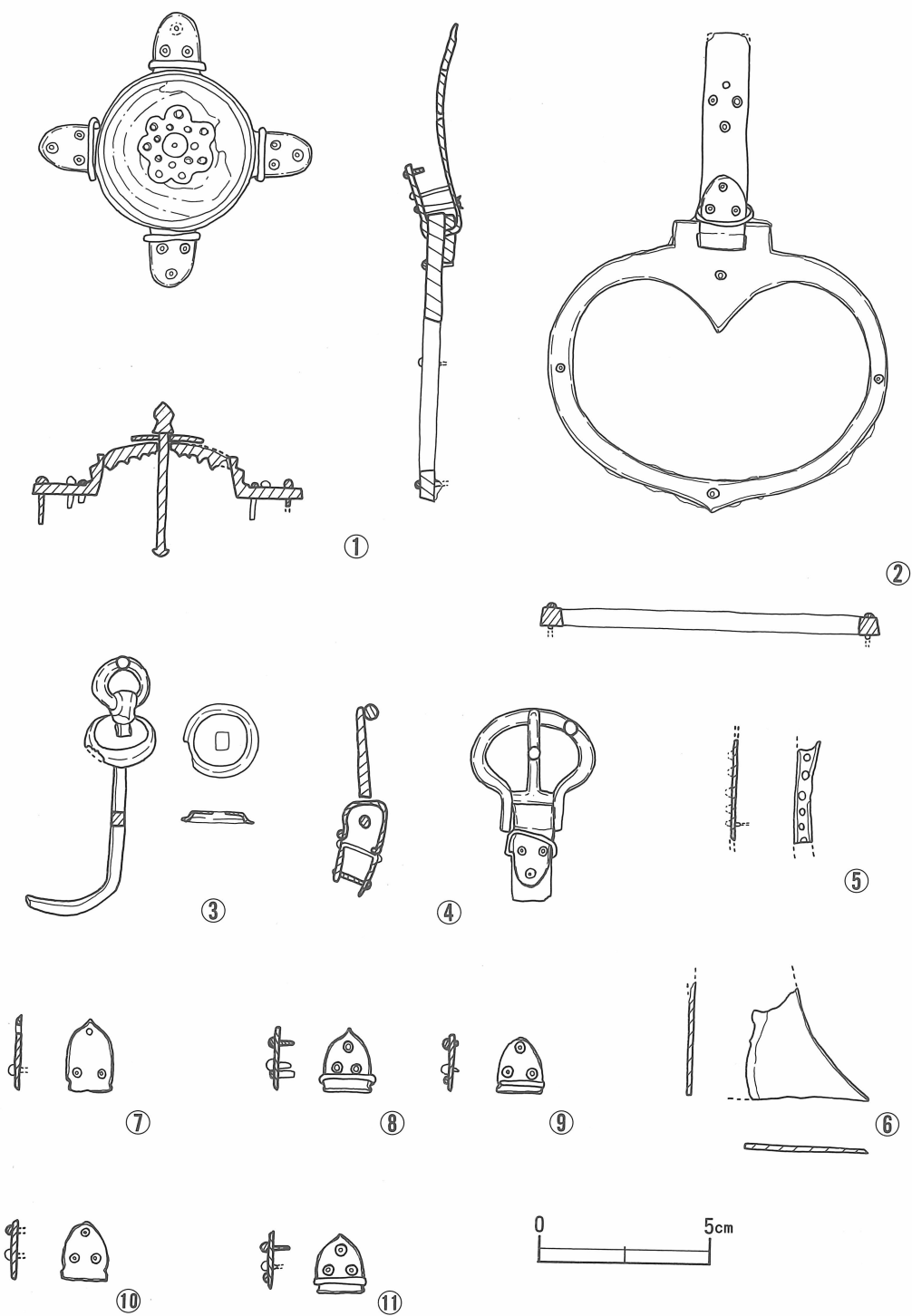
〈横穴式石室〉

● 6号古墳

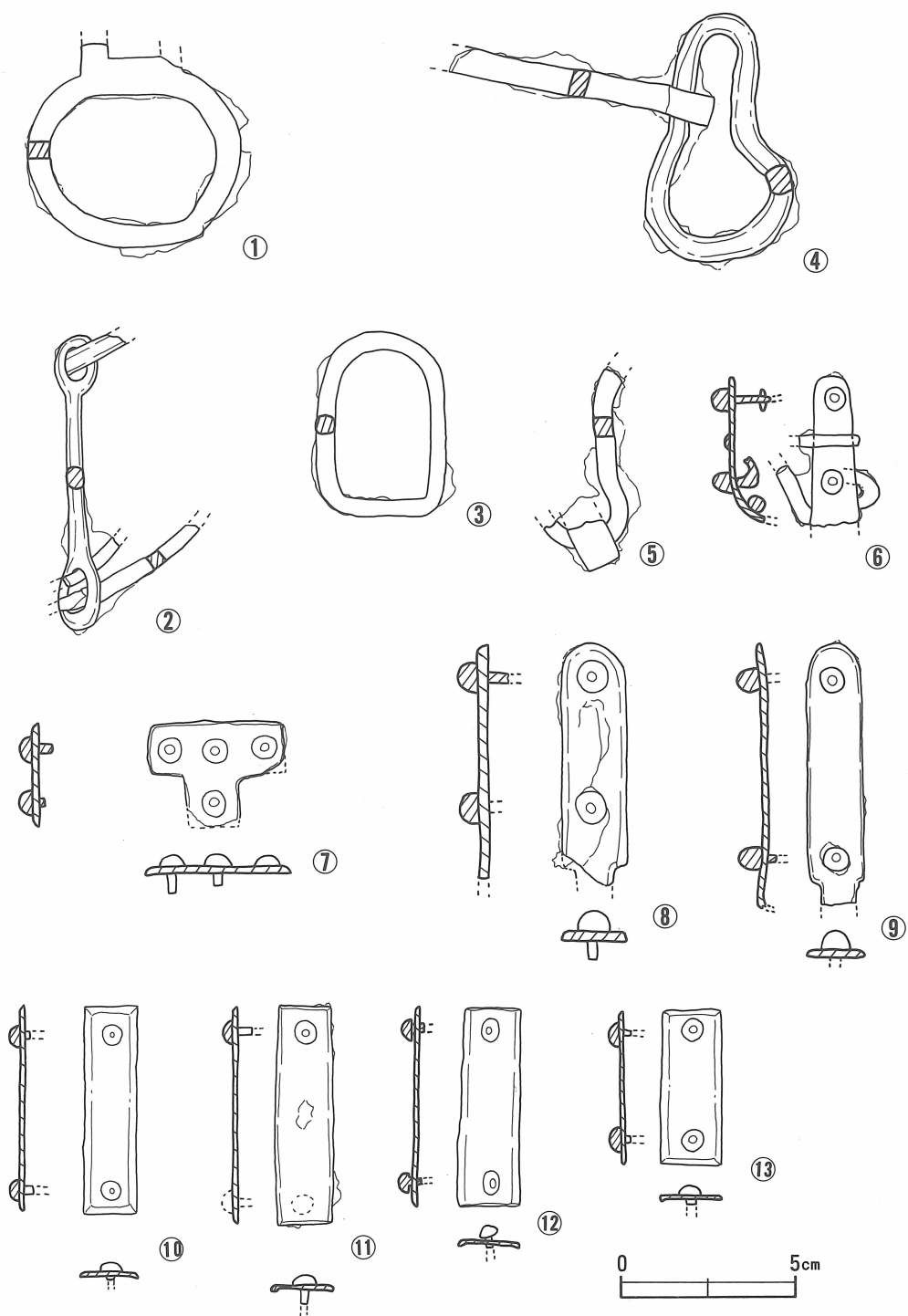
玄室長約4.5m、玄室幅約2.1m、玄門幅0.7m～1.5m、羨道長（現存部）約2.0m、羨道幅0.7m～1.0mを計る両袖単室の横穴式石室である。主軸方向は南北で南側に開口する。



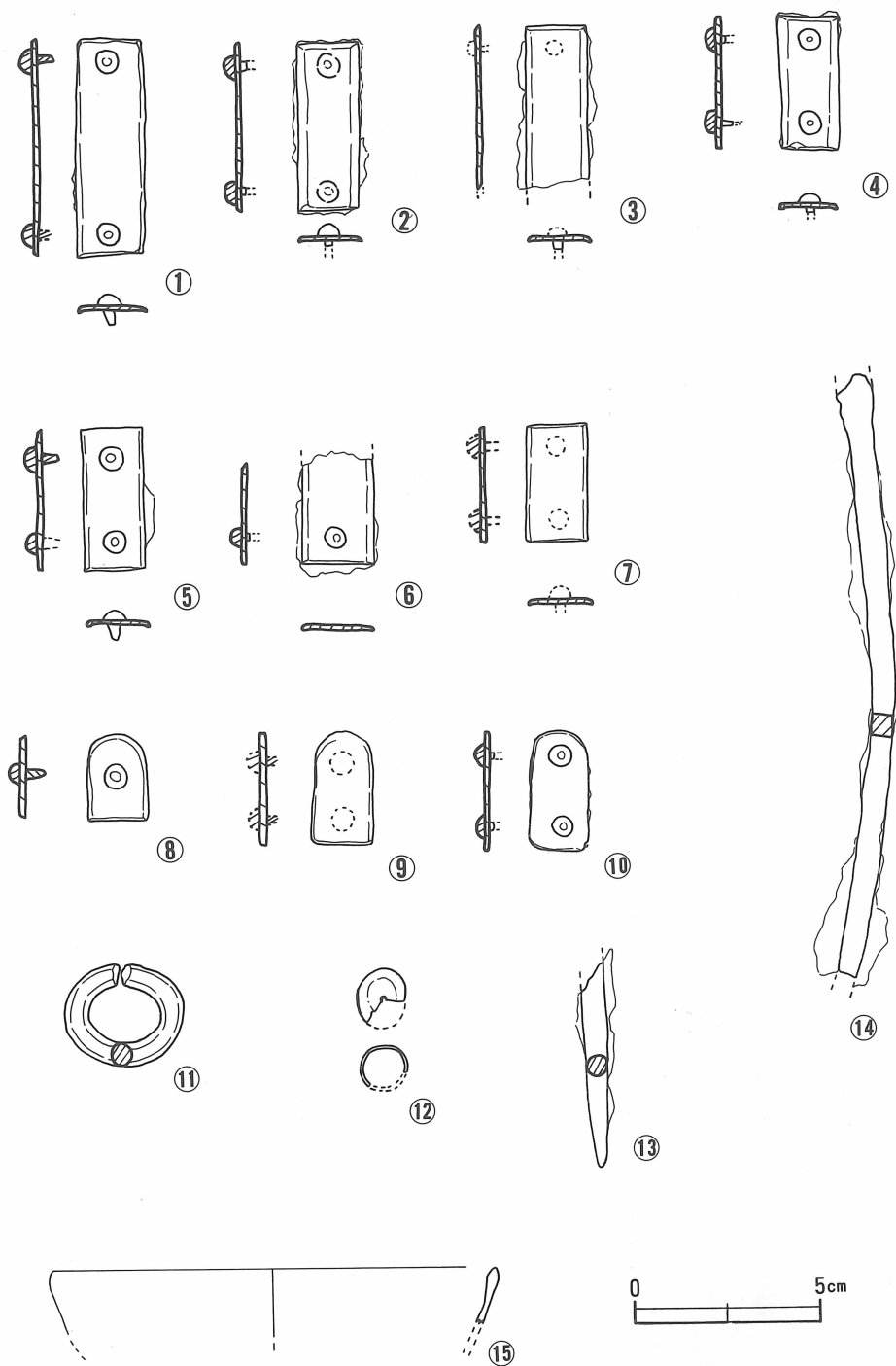
第21図 6号古墳〔南から〕



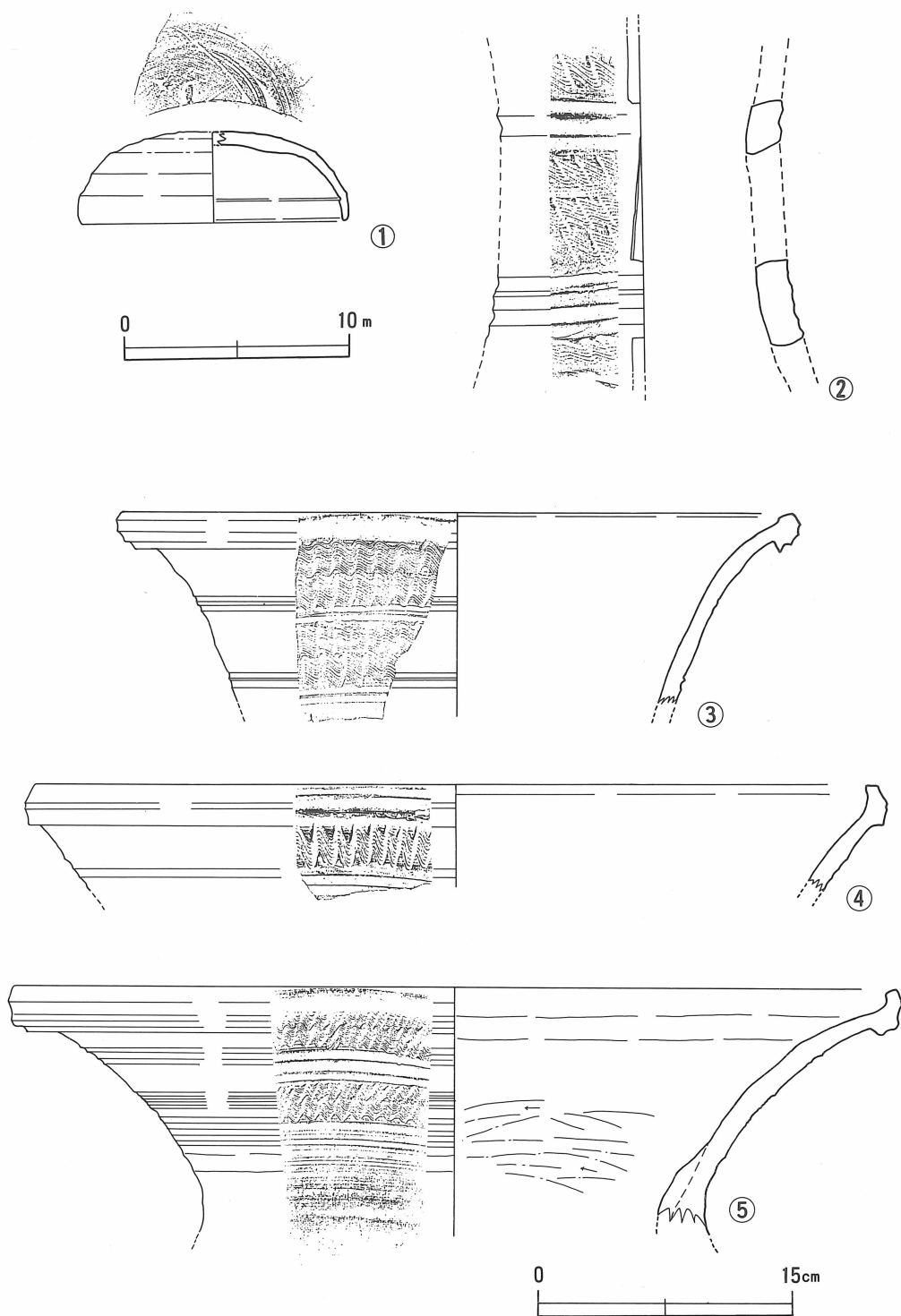
第22图 6号古墳出土品 [1/2]



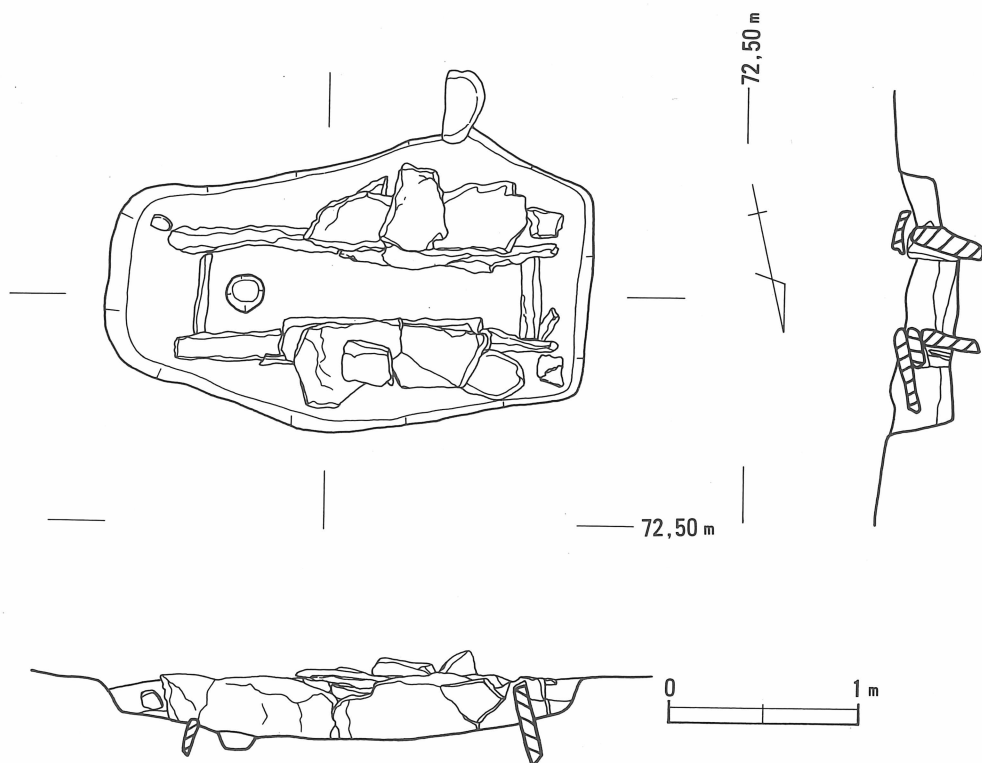
第23图 6号古墳出土品〔1/2〕



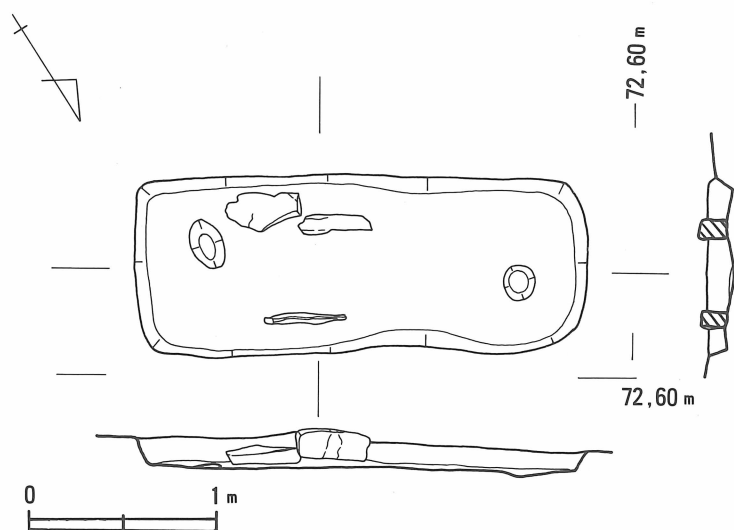
第24図 6号古墳出土品 [1/2]



第25図 6号古墳出土須恵器①、②〔1/3〕③~⑤〔1/4〕



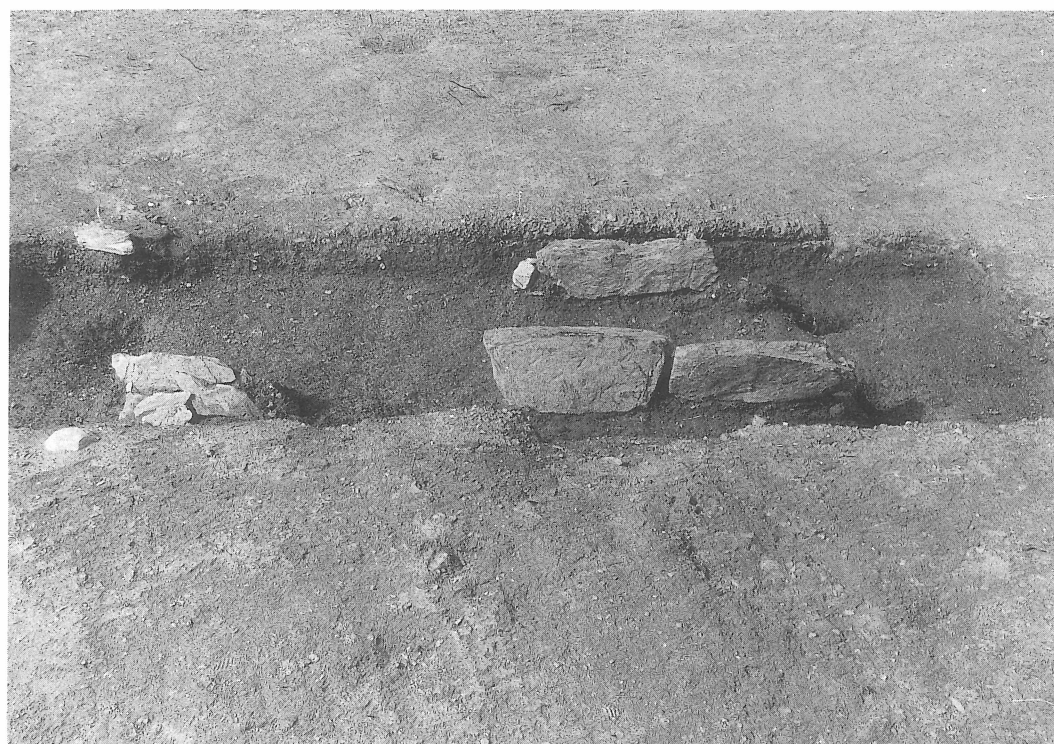
第26図 8号古墳 [1/40]



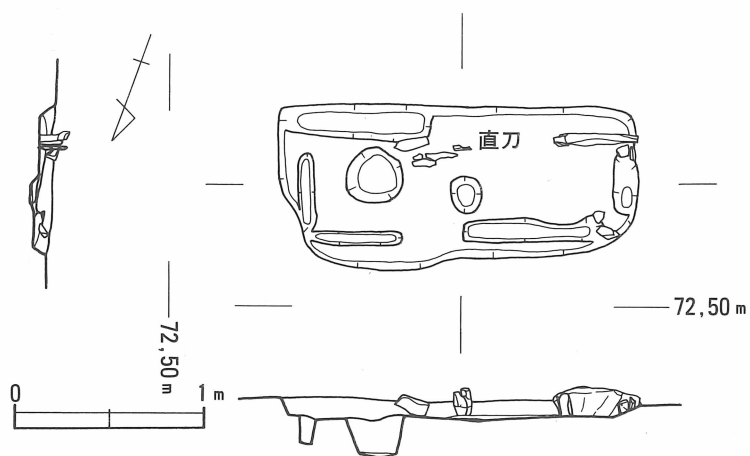
第27図 9号古墳 [1/40]



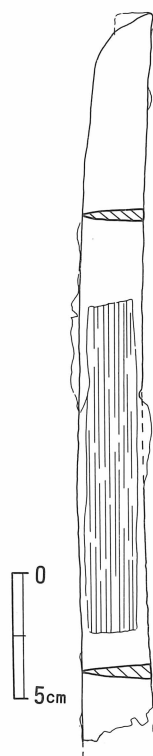
第28図 8号古墳



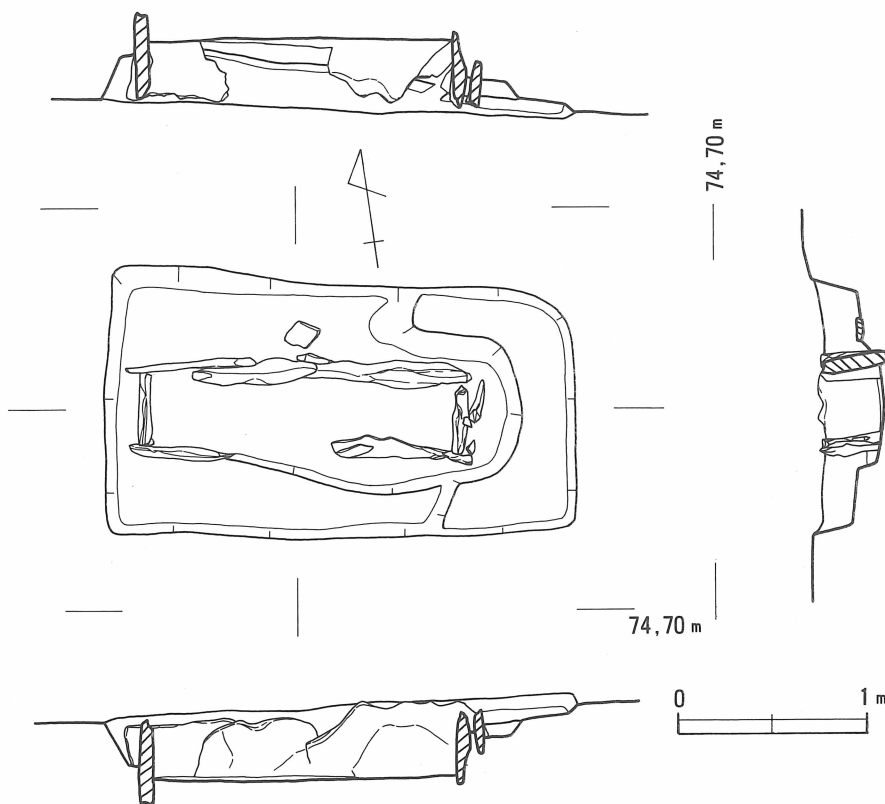
第29図 9号古墳



第30图 1号石棺墓 [1/40]



第31图
1号石棺墓出土遗物
[1/3]



第32图 24号石棺墓

後世においてのカク乱が激しく、その殆どが破壊され、最下段部のみが遺存しているだけというものの、床面敷石上より銅製・鉄製の馬具（轡、留金具等）、ガラス製青色丸玉や金銅製耳環などの装身具が出土し、更に敷石直下より、中心部にイモ貝がはめ込まれた飾金具付辻金具が出土した。共伴していた須恵器より、6世紀後半代と推定される。

〈石棺墓〉

● 1号石棺墓

石棺長1.75m、石棺幅0.6mを計る。

石材は大半が抜き取られ、旧来の姿はほとんどとどめてはいないものの、その抜跡から箱式石棺であったと考えられる。出土遺物は直刀1本のみである。

● 24号石棺墓

石棺長1.6m、石棺幅0.4mを計る。

比較的丈の高い石材で四方を囲み、その石棺内側には赤色顔料が全面塗付されている。

〈土墳〉

● 6号土墳

長軸長1.8m、短軸長0.9m、深さは現存で0.45mを計る。

やや細長い楕円形をしており、須恵甕の破片が出土した。5世紀代のものと考えられる。



第33図 東館遺跡西側〔車側上空から〕

④ 中世(戦国時代)の遺構と遺物

土壌多数、溝状遺構3条、堀1条、建物に伴う石垣2本等を検出した。

しかし、城館の存在が予想された遺跡西側部においては、予測をはるかに越える削平が過去に行なわれており、城館本体は既に破壊された状態であった為、それらを見出す事は出来なかった。

以下、各遺構について述べる。

◎石垣状遺構

〈1号建物〉

全長18.5m以上。6段の階段状遺構が付設されている。

〈2号建物〉

全長5m以上。1号建物の補足的な石垣と思われる。

◎溝状遺構

〈1号溝〉

全長(現存長)46m以上、現存幅7m、最深部は地表面より1.0mを計る。

断面観察より、大きく2時期の推積がある事が判明した事から、堀跡と考えられる。

〈2号溝〉

現存長14m、現存幅5m、最深部は地表面より30cmを計る。

用途は不明だが、通路跡かと思われる。

◎井戸

〈1号井戸〉



第34図 1号建物・石垣



第35図 1号建物石垣と階段



第36図 1号建物石垣と前面の柱穴群〔東から〕



第37図 1号建物石垣内側〔東から〕



第38図 2号建物〔北から〕



第39図 1号溝〔東から〕



第40図 2号溝〔北から〕

直径1.4m～1.9mの楕円形を呈する。最深部は地表面より75cmを計る。現在、湧水は起きていない。

〈2号井戸〉

直径1.8mの円形を呈する。最深部は地表面より1.3mを計る。

◎土 壌

〈9号土壌〉

長軸長約3.0m、短軸長約2.3mを計る。土師皿多数出土。中世墓か。

〈22号土壌〉

長軸長2.5m 短軸長2.3mの隅丸長方形を呈する。明代のものと思われる絵付大皿や青花小碗（太宰府天満宮・第一集参照）が出土した。

〈43号土壌〉

東西約1.0m、南北1.0m、深さ0.6mを計る。

甕の底を抜いた須恵質の陶器の下部に、約0.4m四方の石材を1つ埋置している。

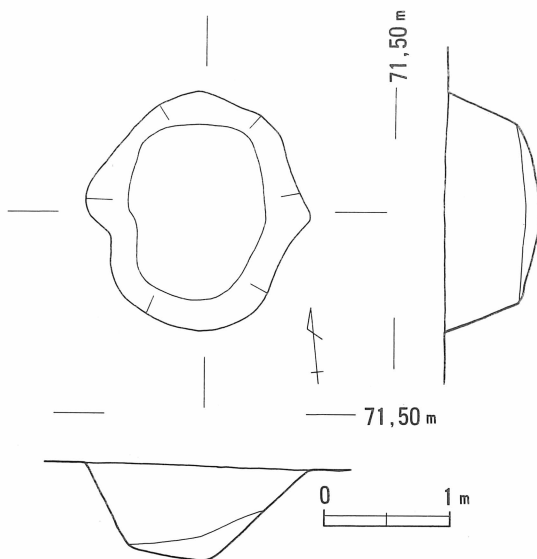
〈44号土壌〉

長軸長約1.7m、短軸長約0.7mを計る。北東隅より鉄斧出土。土壌墓か。

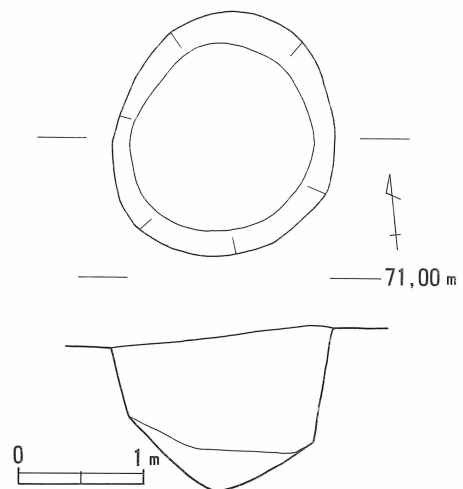
〈石敷状遺構〉

最大長6.8m、最大幅4.6m、最小幅3.0mのL字状長方形を呈する。又、内側には石敷の施設がほどこされており、石敷部のプランは軸長3.4m、幅3.2mのややいびつな正方形をしている。

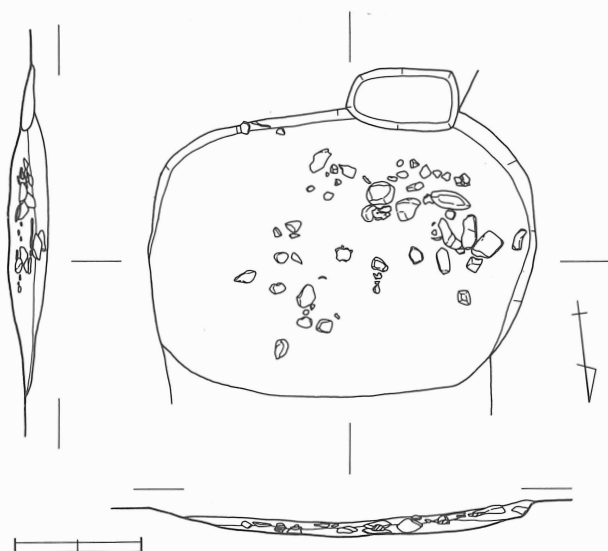
「洗い場」と考えられるが、石敷の粗雑さから、恒常的な施設ではなかったと思われる。



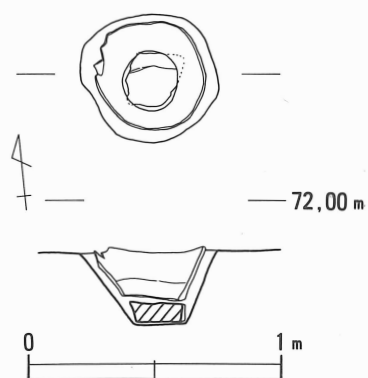
第41図 1号井戸跡 [1/60]



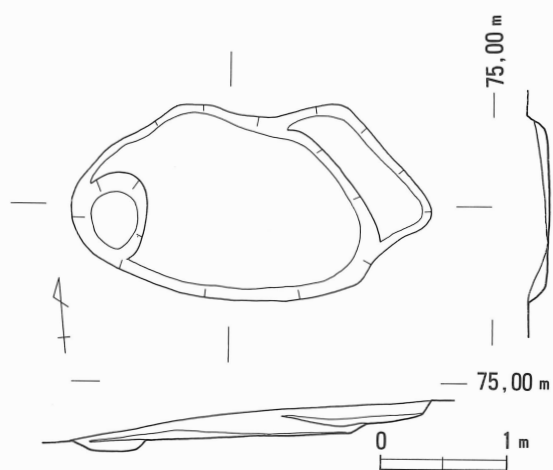
第42図 2号井戸跡 [1/60]



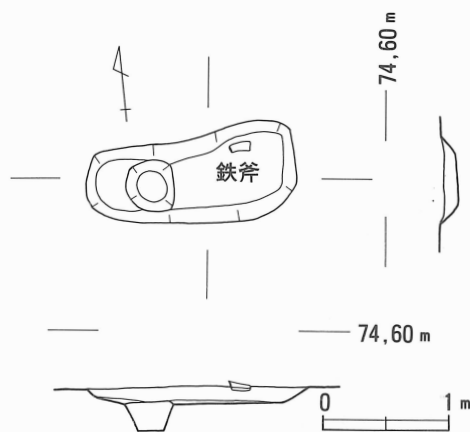
第43図 9号土墳 [1/60]



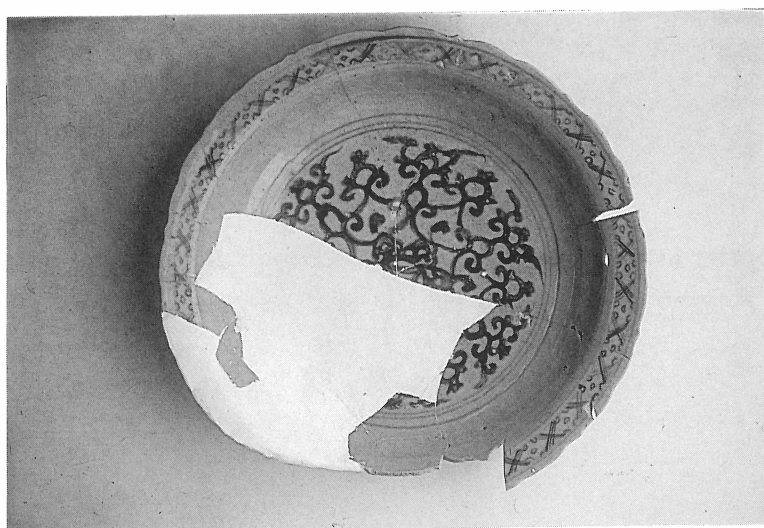
第45図 43号土墳 [1/30]



第44図 22号土墳 [1/60]



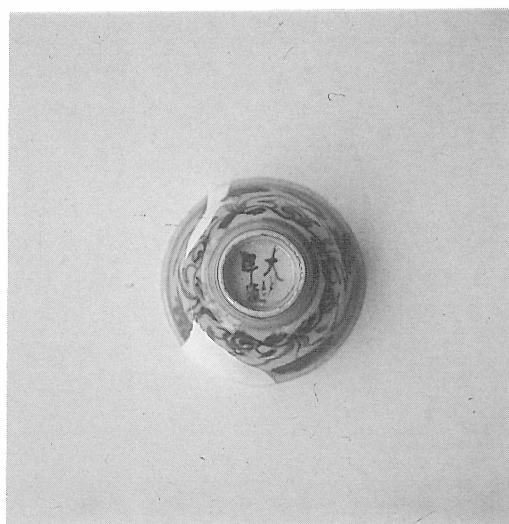
第46図 44号土墳 [1/60]



第47图 22号土壙出土・中国製陶磁器



第48图 22号土壙出土・中国製陶磁器(表)



第49图 22号土壙出土・中国製陶磁器(裏)

東館遺跡

八女市文化財調査報告書

第 25 集

平成5年3月31日

発 行 八 女 市 教 育 委 員 会

八女市大字本町647

印 刷 (資) 東 兄 弟 印 刷 所

八女市大字祈祷院562

東館遺跡（八女市文化財調査報告書第25集）

正誤表

頁	行	誤	正
24	3	・ 越える	超える
24	15	・ 推積がある	堆積がある